

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ③子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ

- ◆ 放課後児童クラブは、国県市等からたくさん支援を受けていることに驚きでした。健常児・障害児によって、放課後に支援を受ける場所等にも様々なサービスがあると知りました。また、私が子どもの頃は児童館がたくさんあったと記憶していますが、今は周りで見えなくなってきており、講師の話どおり年々減っているということに納得がきました。それに対し、放課後児童クラブが増えている現実では、保護者のニーズが増えてきている背景があるのだと学びました。
- ◆ すべての子どもが健やかに成長することができるように、様々な支援・制度があることを知りました。その1つとして放課後児童クラブがありますが、運営にあたってたくさんの補助や支援があり驚いています。現場で働く立場として、保護者が安心して預けられるように日々の業務を丁寧にしていきたいと思います。
- ◆ 放課後児童クラブの運営に関連する事業について詳しく学ぶことができました。近年の児童と家庭を取り巻く環境の変化の中で必要不可欠となった放課後児童クラブのために様々な事業が行われていることを知りました。それでもまだまだ支援員の認知度は低いので、今後処遇改善を進めながら需要と認知度の高さが釣り合うようになっていけばよいと感じました。その他に障害児のデイサービスや居宅訪問型の事業について知ることができました。障害のある子どもをもつ家庭にとって、学校以外で預かってもらえる場所はとても重要だと思います。今後サービスが増えてほしいと思いました。
- ◆ 子ども・子育て支援新制度、障害福祉施策、児童厚生施設、新・放課後子ども総合プランについて深く学ぶことができました。その中でも事例として紹介のあった「キッズプラザ桃花」は、放課後児童クラブ・児童館・放課後子ども教室が連携していて、子どもたちが楽しく過ごすことができる素晴らしい環境の施設だと思いました。本県でも閉校した学校などを利用できたら少子化対策にも繋がるのではないかと思います。
- ◆ 今まで何気なく利用している児童館に種別や機能・特徴の違いがあると意識したことがなかったので、この科目を通じて詳しく理解することができました。また、児童館ガイドラインの改正のポイントに虐待等に関する点が追加された点が触れられていましたが、放課後児童クラブを利用している子どもたちにも関わりのある部分だと感じたので、今後何気ない変化にも気付けるように丁寧に関わっていきたいと思いました。